

※弊社のメルマガをご希望くださった方、過去にメールでのやり取りやお名刺を交換させていただいた方、

弊社のクライアントの法人様にお送りしています。

※メルマガは、多すぎて読み切れない方も多いかと思います。

「配信不要」とだけご返信いただけましたら即、配信を停止致します。

ご不要の場合は、大変に恐れ入りますが、そのようにお取り計らい頂けますと幸いです。

こんにちは。

いつも大変お世話になっております。

福祉マネジメントラボの大坪信喜です。

おかげさまで弊社は、本年4月1日をもって、まる3周年を迎えることができました。

平成27年3月、前職である都内の会計事務所系コンサル会社「川原経営総合センター」の

シニアコンサルタントを辞して、前職での20年以上にわたるコンサルタント
経験で培った

ノウハウを携え、社会福祉法人・介護事業所様に対してさらなる貢献を
考え、起業致しました。

「働く人が会社に信頼感を持って同じ方向を向いて働けること」。

このことが一番大事という思い一つでコンサルタント事務所を開設して、まる
3年。

おかげさまで、本当におかげさまで、今まで続けることができています。

心から、有難うございます。

そんな第1回目のメルマガは、福祉介護職員等の専門職に対する「マインド研
修」の必要性についてです。

私は、福祉介護の職場であっても「同じ方向を向いて働けること」が何より大
事だと考えています。

「利用者サービス」に関する技術研修をいくら受講しても「同じ方向を向いて
働けること」にはつながらないと考えています。

他人同士が一つの職場で気持ちよく働くためには、利用者サービス以前に、同僚同士が尊重し合って働くことや上司や先輩に対して礼儀正しく、上下関係を意識しながらつながっていくこと、批判と叱責ではなく、ほめることで信頼し合える人間関係が土台だと思います。

そうした思いから、私は専門職向けに「ビジネスマインド研修」を開発し、多くの社会福祉施設や介護事業所様に取り入れて頂いています。

お時間が許せば「ビジネスマインド研修」を受講された＜受講者の声＞をご参照になって下さいませ。

<http://fukushi-mng.com/free/kaigojigyousho-keieiconsulting-hiyou>

職員研修と一口に言いましても、外部の研修機関へ派遣する研修と自社で独自に開催する研修とでは目的が大きく異なります。

社会福祉協議会や都道府県、介護労働安定センター主催の外部の技術研修に派遣しても自社、自法人の目的や経営者の意図（思い）は職員には中々浸透しません。

松下幸之助さんは人材育成とは「経営が分かる人材を育成すること。」と論じておられますが、「利用者主体」や「介護保険の理念」だけでは、「法人経営」を理解してくれる職員を育成することは難しいのではないかと思うのです。

多くの場合、「利用者主体」という大義名分を振りかざし、職員は自分本位に働きます。

結果、経営層と職員が対立したり、協調できない場面を実に多く見て参りました。

会社に雇用され、その会社で成果を出すためには帰属意識が欠かせないのではないのでしょうか。

外部機関の技術研修に派遣するだけでは、この大事な「帰属意識」は醸成されないと思うのです。

当然、外部機関が提供する研修は目的が違うわけですから、外部機関による研修が不要だということを言いたい訳ではありません。

外部機関が提供する技術研修だけに頼って、自社内での人材育成、つまり松下幸之助さんが仰っている本当の人材育成を疎かにしてはいけけないのではないかと思うのです。

自社で開催する内部研修では、費用も掛かり、一人二人、ぽつんぽつんと派遣すれば済むわけではなく、それなりの人数を集めなければ意味がありませんので勤務調整やまとまった時間も必要になります。

外部の講師に来てもらうとそれなりの費用も掛かります。

しかしながら、そうしたハードルを超えても開催する意味があると思います。

なぜなら内部研修では、職員の帰属意識と自社に対する感謝の気持ちを醸成することができるからです。

福利厚生は自社に帰属感を持ってもらうための大事な政策ですが、会社主催の内部研修は、福利厚生の重要な柱の一つでもあると思うのです。

賃金や時給といった物理的報酬ばかりが取りざたされますが、こうした福利厚生は精神的報酬につながるものです。

「人はパンのみでは生きられない。」と言われてますが、精神的な報酬が得られる職場の方がずっと長続きするものです。

ここからはご案内です。

弊社では、会社の規模や予算に応じて2種類のビジネスマインド研修を用意しています。

いずれも労働局の人材開発助成金の対象になりますので費用面でも御社の持ち出しが少なく済むように組み立てています。

業務が忙しくて1日2時間程度しか職員を集められないという事業所様のために

2時間×10回のコースを準備しています。

また、朝の10時から夕方5時半まで職員を利用者サービスから切り離して、1日みっちり受講してもらう4日間コースも準備しています。

研修カリキュラムは以下をご参照頂けますと幸いです。

御社の実情に合わせて自由にカスタマイズできます。

http://fukushi-mng.com/free/consul_menu

専門職集団であっても「働く人が会社に信頼感を持って同じ方向を向いて働くこと」が一番大事。

そんな確信のなか、このカリキュラムを練って参りました。

何かのご参考になれば誠に幸いです。

お忙しい中、最後までお読み下さり、本当に有難うございました。

☆このメルマガがご不要の場合、

「配信不要」とだけご返信いただけましたら即、配信を停止致します。

ご不要の場合は、大変に恐れ入りますが、そのようにお取り計らい頂きます
と幸いです。

福祉マネジメントラボ

代表 大坪信喜

Mail info@fukushi-mng.jp

ホームページ <http://www.fukushi-mng.jp/>

〒238-0021 神奈川県横須賀市富士見町 3-77

TEL 046-890-0856 FAX045-330-5995
